



ライスターミナルなどを見学したガーナ視察団(2024年)

1993年のローリングス大統領夫妻、2002年のクフォー大統領夫妻、2018年のアクフォ・アド大統領など、日本を訪れたガーナの歴代大統領も、同記念館を訪れています。そのような縁もあり、2021年に開催された東京オリンピック・パラリンピック2020では、ガーナのホストタウンとして事前合宿の受け入れを行いました。また、2024年には、ガーナにおける稲作農業の付加価値を向上させるために農業研修生の受け入れを行うなど、さまざまな交流が続けてきました。

【ガーナとの交流2026】

宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所の佐藤毅彦教授らが企画した「日ガ高校生国際プロジェクト」に猪苗代高校の筑井花さん(3年)と豊田ころさん(1年)が参加。8月15日から23日までガーナを訪問し、野口博士が研究に打ち込んだ首都アクラのコレブ病院にある研究室などを見学したほか、現地の高校生と交流しました。2人は、「ガーナでも、博士のことを知らない人が少なくありません。日本でも千円札の肖像画が変わり、博士を知る人が少なくなるのは残念。博士の功績をもっと多くの人に知ってほしいです」と話しました。



テマ高校で抹茶を振る舞った(右奥から)豊田さんと筑井さん



役場を訪れたガーナの高校生の皆さん

高知県の「ガーナよさこい支援会」による研修旅行の一環で、ガーナの高校生20人が9月1日から7日まで、猪苗代町などを訪れました。9月2日には町役場を訪れ、二瓶盛一町長を表敬訪問。滞在中は、野口英世記念館や長照寺を見学したほか、猪苗代中学校や猪苗代高校の生徒らと交流しました。町役場を訪れた生徒らは、「山々に囲まれた景色が美しい」「ここでの生活様式をガーナの友達にも教えたい」など、猪苗代での印象や感想を話しました。平成19年から始まった研修旅行は、3年ごとに実施され、これまで両地域の友好を深めてきました。

▼問い合わせ先
企画財務課 企画調整係
☎(62)2112

11月9日は、博士の生誕日にあたります。また本年は、野口博士の生誕150周年という節目の年です。この記念すべき日に、博士ゆかりの地であるアヤワソ・ウエスト区と友好都市の締結を行うことは、博士の功績を顕彰し、次の世代へ伝えていくうえでも大きな意味があります。これからも友好都市として、博士の功績を両地域で顕彰するとともに、歴史、文化、教育、農業など、さまざまな分野で交流を深め、博士がつないだ縁を未来へつないでいきます。



町立病院に立つ博士像

博士の功績を顕彰し
次の世代へ

野口英世博士がつないだ縁を未来へ — 友好都市締結 —



ガーナ共和国
(アクラ市アヤワソ・ウエスト区)



猪苗代町

11月9日
友好都市の締結へ

本年11月9日、猪苗代町とガーナ共和国の首都アクラ市にあるアヤワソ・ウエスト区は、友好都市の締結を行います。西アフリカの中央部に位置するガーナと本町がなぜ?と思う人もいると思いますが、そこには猪苗代が誇る偉人が関係しています。

黄熱病の研究に挑んだ野口英世博士

アメリカでの活躍が認められ、世界的な医学者(細菌学者)となった野口英世博士は、黄熱病の研究のため、1927年にアフリカへ渡りました。研究の拠点となったのが、現在のガーナの首都アクラです。

しかし翌年、研究対象であった黄熱病に感染し、博士はアクラで亡くなりました。

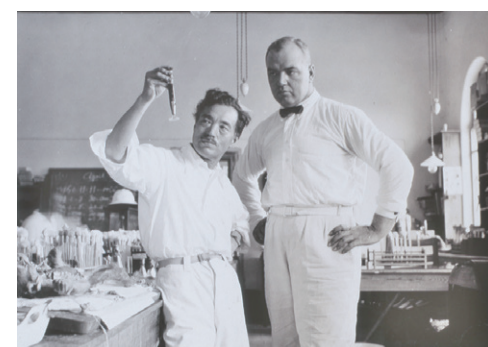
現在もアクラには、博士が研究した施設が保存されているほか、博士の名を冠した通りや研究所があり、博士の功績が大切に受け継がれています。

博士ゆかりの地
アヤワソ・ウエスト区

アヤワソ・ウエスト区は、ガーナ大学内に野口記念医学研究所があるなど、博士ゆかりの地の一つです。



博士の功績を記念し設立された野口記念医学研究所(写真提供:野口英世記念会)



ガーナで研究に励む野口博士(左)とマハフィー博士(写真提供:野口英世記念会)

猪苗代町とガーナ
これまでの交流

博士の故郷である本町には、野口英世記念館があり、国内外から多くの人が訪れています。が、ガーナの大統領や政府関係者らも例外ではありません。

1993年 (平成5年)	2002年 (平成14年)	2018年 (平成30年)	2021年 (令和3年)	2024年 (令和6年)
ローリングス大統領夫妻が野口英世記念館を訪問	クフォー大統領夫妻が野口英世記念館を訪問	アクフォ・アド大統領が野口英世記念館を訪問	東京2020オリンピック・パラリンピックで、ガーナのホストタウンとして事前合宿を受け入れ	ガーナの稲作農業の付加価値向上に向けた農業研修生を受け入れ